



3 回目の緊急事態宣言

4月25日から5月11日まで、東京都に緊急事態宣言が出されました。人の流れを減らすことを意図して大規模なイベントの中止や無観客化、大規模店舗やテーマパークなどの休業、大勢の大人が大声で会話することを防ぐ目的で飲食を伴う空間での酒類の提供の禁止などが報道されています。休校や休園などではなく、遠足や宿泊行事には影響が出そうですが、子どもの日常生活には大きな変化はなさそうです。この状況の中で、子どもと大人はいったいどのような生活をすればよいのでしょうか。

なぜ、大人が酒を飲んで騒いではいけないのか？その答えは「あなたが人に新型コロナウイルスをうつすから。」です。実は自分が新型コロナに罹っていないと思っている人が感染源になります。これがこの病気の厄介な点の一つです。少なくともだるさや味覚障害などの症状が出る前日には他人にうつす感染力があります。また、PCR 陽性、つまりウイルスが身体に入ったとしても、およそ3割から4割の人は無症状で、他人に感染させる能力はあっても、いつのまにか自然治癒します。とくに比較的若い大人にその傾向があります。「私は大丈夫、元気だし、新型コロナにかかっていない」と思って外出しているあなたが感染源になるのです。そんな人がマスクを外して大声を出すと、周囲にいる大勢に新型コロナウイルスをうつすことになるのです。一人が10人にうつしたら、患者数はあっという間に増加し、死亡率が1~2%ありますから一定の比率で重症者が出ます。重症者が増えると入院できる病院が満杯になり、新型コロナにかかっても入院つまり酸素吸入もできずに苦しんで亡くなる人、新型コロナにかからなくても交通事故などの外傷や心筋梗塞などの通常の重症患者が対応できる医療機関も不足して亡くなる人が増えるのです。この医療崩壊は絶対に防ぐ必要があります。

これが毎日同じ数人との接触であれば、患者数が爆発的に増えることはありません。だから家族内での食事は大丈夫なのです。子ども同士あるいは子どもから大人への感染も頻度は少ないとされています。子どもでPCR陽性になっている人の大部分は家族内で大人からうつされた人です。大人は自粛生活、子どもはいつもの学校生活。そんな17日間になりそうです。

口(くち)の機能の発達と離乳食

産まれたばかりの赤ちゃんは自分で母乳やミルクを飲むように哺乳反射が備わっていますが、食べることは自然に身につくものではありません。食べものを砕き、舌でまとめ、口の奥に運び飲み込むという一連の動作を繰り返して少しずつ学習していきます。2019年3月に厚生労働省「授乳・離乳食支援ガイド」が12年ぶりに改定されました。歯の生え方や摂食機能についても記載され、子どもの発達に沿った離乳食の進め方の内容となっています。離乳食は月齢だけではなく口の機能の発達、身体の発達、食べたいと思う心の成長も総合的に見ながら進めていくといいでしょう。

・口唇食べ期(5~6ヶ月ごろ)

舌を前後に動かし唇を閉じ、ごっくと飲み込みます。

・舌食べ期(7~8ヶ月ごろ)

下の前歯が生えてくることで舌は前後、上下運動ができるよ

先の方を使って食べた物を取り込み、舌と上あごを使ってつぶし、ひとまとめにする動きを覚える時期。

・歯ぐき食べ期(9~11ヶ月ごろ)

舌は前後、上下、左右にも動き、食べものを片方の歯ぐきに運び、舌と頬を使ってつぶす動作をします。上下4本の前歯が生え、奥歯の歯ぐきが膨らみます。食べものはある程度挟める厚みがある方が食べやすいです。あまり小さいと歯茎で噛めずに便にそのまま出てくることもよくあります。

・手づかみ食べ期(12~24ヶ月ごろ)

前歯でかじり取ることで1回に食べる量を覚えます。舌は斜めにも複雑に動くようになり、奥歯を使ってすりつぶして咀嚼を覚える時期です。手づかみは自分から食べようとする意欲の表れです。十分にさせることで脳の発達を促し、スプーン、フォークなどを使った動作の基本を学ぶことにつながります。

歯の生え方、口の発達には個人差があります。お子さんの口の動きをよく観察し、離乳食の段階を行ったり来たりしながら焦らず進めることが大切です。食べてくれない、体重の増えが心配な時はご相談下さい。



5月のケロケロひろば



5月20日(木) 待合室(予約制) *詳細はHPをご覧ください

14:00~14:45 もしくは 15:00~15:45 (時間指定不可)

混雑緩和のため、電話もしくはメールでご予約をお願いします。

申込受付 5/6(木)10:00~5/17(月)17:00

*ご希望者が多い場合は抽選とさせていただきます